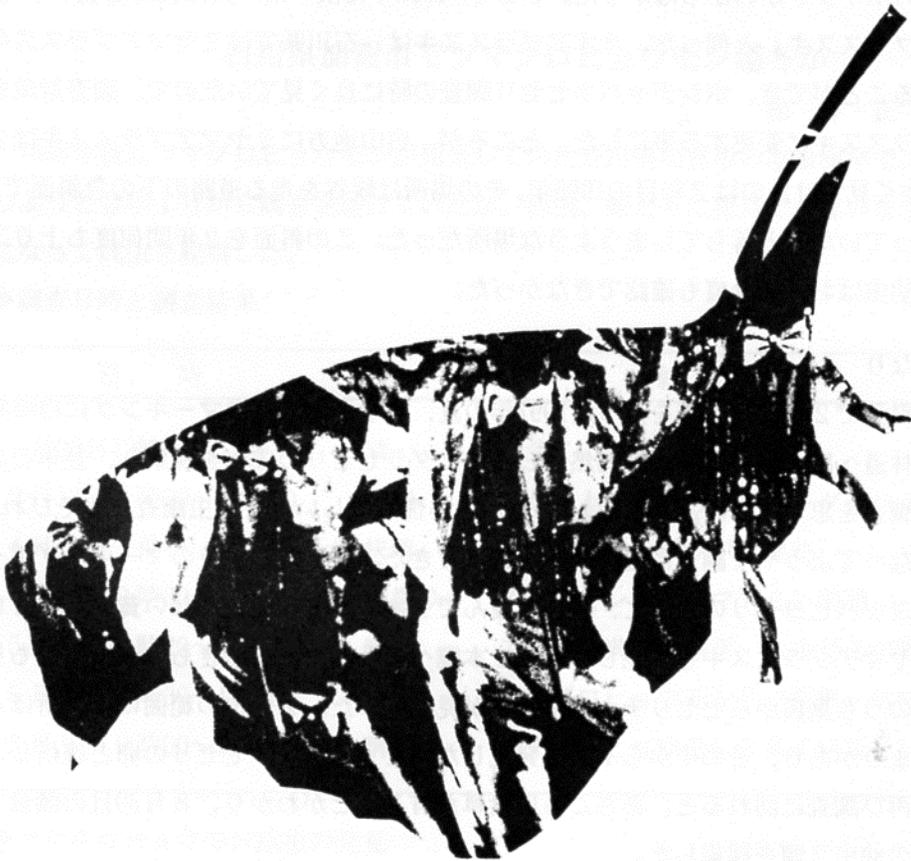


翔

百万石蝶談会

No. 138

June 1999



ヒメキマダラセセリの卵と幼虫を観察

松 井 正 人

石川県で確認されているセセリチョウの仲間は、全部で16種。この中で幼生期が観察されていないのは、ヒメキマダラセセリとギンイチモンジセセリであったが、今回ヒメキマダラセセリの卵と幼虫を観察した。

本種の幼虫調査に取りかかったのは、アサギマダラの幼虫を発見した翌年の1991年で、当時はセセリチョウ科最期の幼虫調査だったが、1992年に県内でギンイチモンジセセリが初観察され、幼虫が未確認のセセリチョウは2種になっていた。

◆発見までの道のり

幼虫を探し始めたのは1991年。県内に本種の記録は少なく、成虫の記録が集中する白山地方でチヂミザザに的を絞って春期に調査をしていたが、手がかりは何も見つからず数年が過ぎた。チヂミザサは、林縁や道路縁にカーペット状になってふんだんにあり、どこを捜して良いのポイントがわからなかった。そこで、1995年に浜 栄一氏に教えを乞い、「林内のオオアブラススキ」と伺った。オオアブラススキは、石川県ではミヤマアブラススキに置き換えることができ、ホシチャバネセセリ調査の時に良く見ていたので、調査対象をミヤマアブラススキに変更する事にした。ところが、白山地方にミヤマアブラススキは少なく、ようやく見つけたのは2年目の1996年。その場所は峡谷を走る道路の下の急斜面で、何かに捕まっていないと落ちてしまうような場所だった。この斜面を2年間何度も上り下りしたが、幼虫はおろか食痕も確認できなかった。

◆偶然の重なり

春期に急斜面で2年目の調査を行った1997年の夏、アサギマダラのマーキングに白峰村の白山釈迦林道へ出かけた。ここで偶然にヒメキマダラセセリの成虫を採集し、翌年この地での幼虫調査を思い立った。1998年は、季節が早い慌ただしい年で幼虫調査に出そびれ、7月25日になってようやく調査に出かけることができた。アサギマダラのマーキングポイントにあるヨツバヒヨドリの根際に、フキと並んでフキ位の大きさしかない貧弱なヒヨロヒヨロのミヤマアブラススキを発見し、1本1本調べると、食痕らしきものがいくつも見つかかり、そのうち葉裏からセセリチョウ科の卵が見つかった。2㎡位の範囲に4カ所ほど食草のかたまりがあり、その中から7卵を発見した。ヒメキマダラセセリの卵と確信し、8月2日に再び調査に訪れると、あちこちに食草が有ることがわかり、8月30日の調査では、9mm程の幼虫2頭を採集した。

日陰の貧弱なミヤマアブラススキは念の為、金沢大学理学部植物園で同定していただいたところ、コシノネズミガヤとの回答であった。貧弱でヒヨロヒヨロなミヤマアブラススキと勘違いして捜していたことになるが、偶然のいたずらからか、違う植物からヒメキマ

ダラセセリが見つかってしまった。おかしな話である。

ヒメキマダラセセリ 石川県石川郡白峰村白山釈迦林道 松井正人採集

1998年7月25日 7卵(コシノネズミガヤ) → 1998年9・10月 2♂3♀羽化

1998年8月30日 2幼(コシノネズミガヤ) → 1998年10月 2♂羽化

◆おわりに

1991年から8年間かけてようやく幼虫が確認できた。この間には大勢の方の協力を賜った。中でも、突然の手紙に対して懇切丁寧なお返事をいただいた浜 栄一氏、植物の同定ではいつもお世話になる金沢大学理学部植物園の木下栄一郎氏、白山釈迦林道への立ち入りに関して便宜をはかっていただいた金沢営林署の方々に厚くお礼申し上げる。

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

石川県加賀市でツマグロヒョウモン越冬か

松 井 正 人

1998年秋にツマグロヒョウモンが発生していた石川県加賀市の塩屋海岸で、越冬を確認しようと翌年1月から調査を続けていたが、幼虫、蛹ともに発見できないまま、5月上旬になって成虫を観察した。

◆調査日時と調査結果

日 時	天候	調 査 結 果
1月30日12時00～13時30	晴	波荒く、風が強くて寒い
2月17日9時30～13時40	快晴	暖かく上着がいらぬ、キタテハ1頭
4月4日午前中	快晴	イソスミレ、ポツポツ開花
4月17日9時30～11時00	薄曇り	イソスミレ、アナマスミレ満開
5月1日9時20～11時10	晴	スミレは満開を過ぎ、ハルゼミが鳴き出す
5月8日9時30～11時00	晴	ツマグロヒョウモン2♂採集、ハマナス開花
5月9日9時00～14時20	晴	ツマグロヒョウモン3♀イソスミレに産卵

◆ツマグロヒョウモン成虫の発見

5月1日の調査までは幼虫、蛹、成虫と何も発見できなかったが、5月8日になって飛翔するツマグロヒョウモンを発見した。

5月8日は、9時30分から11時まで観察し、9時50分にやや飛び古した1♂、10時50分

には、ハマハタザオに止まってテリトリー行動をとる新鮮な1♂を採集したが、この2♂以外は発見できなかった。5月9日は、9時から14時20分まで観察し、3♀を観察した。2♀は新鮮ながらも右後翅が大きく破れた個体と小さく破れた個体で、残る1♀は全く新鮮な個体だった。この3♀は、11時位までの間に入れ替わり現れ、イソスミレに盛んに産卵していたが、それ以後姿が見えなくなった。14時頃になり100m程離れた場所で、右後翅が小さく破れた♀が止まらずに飛び過ぎて行くを目撃した。同じ場所で、今度は新鮮な♀がフワフワと飛びイソスミレ付近に止まったり、マツの枝に止まったりするのを観察したが、産卵しようとする様子はなかった。この日は何回か♀を見ているが、羽の破損状況から飛んでいたのは3♀だと思われる。また、この日は♂を1頭も観察できなかった。

1999年5月8日 石川県加賀市塩屋海岸 2♂採集 松井正人
 1999年5月9日 石川県加賀市塩屋海岸 3♀目撃2卵採集 松井正人

◆加賀海岸における越冬の推定

採集した♂は、前翅長30mmと31mmで、前年の秋に石川県各地で採集した♂個体の前翅長が35mm~40mmなのと比べると、ひとまわり小さい。非休眠の幼虫で越冬し羽化した個体は、夏から秋にかけて発生するものに比べてひとまわり小さいことが知られている(福田晴夫・他、1983)ので、採集した♂は幼虫越冬したものと思われる。塩屋海岸にあるイソスミレは冬枯れせず、1年中葉を付けているので、非休眠幼虫の越冬が可能で、前年の秋にはイソスミレを食べている幼虫を発見している(松井正人、1999)。宮野昭彦(1995)によると、岐阜県各務原市では幼虫で越冬したものが、5月1日と5月5日に羽化している。今回の成虫観察はこれと似たような時期であり、しかも狭い範囲から2♂3♀が観察されていることなどから、塩屋海岸で越冬したと考えるのが合理的である。

石川県内における本種の越冬観察はこれまでなく、また越冬を思わせる成虫の記録もない。今回の記録は、越冬している幼虫や蛹を観察した訳ではないが、本県での越冬を思わせる初めての記録となる。

また、今回の越冬調査は塩屋海岸以外でも、日吉芳朗・南賀子夫妻によって輪島市気勝山で、嵯峨井淳郎氏によって金沢市大額・額谷で行われているので、今後、これらの場所からも同様な個体が観察される可能性が高い。

《 参考文献 》

- 福田晴夫・他(1983) ツマグロヒョウモン. 原色日本蝶類生態図鑑Ⅱ:109-112.
 松井正人(1999) 石川県各地でツマグロヒョウモンの幼虫を調査. 翔(136):19-20.
 宮野昭彦(1995) 岐阜県各務原市でのツマグロヒョウモンの越冬例. だんだらちょう, 13(38):7-11.

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

金沢城址におけるハンミョウ科2種の採集・目撃記録

吉村久貴

金沢城址(石川県金沢市丸の内)において、コハンミョウとエリザハンミョウの2種のハンミョウを採集しているので報告する。コハンミョウは石川県内での生息数は少なくないと考えられるが、採集記録例はあまり多くない。

筆者の勤務する石川県立金沢二水高校は、平成8年(1996年)夏より平成10年(1998年)夏まで、校舎改築のため、金沢市緑が丘の地を離れ、城内の旧金沢大学教養部の校舎で授業を行ってきた。これに先立ち、旧理学部の建物を完全に取り壊し広い駐車場とし、旧教養部と旧理学部の間の空き地が、ところどころ土のむきだした草地となっていた。

この草地の部分で、平成9年(1997年)、6月下旬頃から、非常に小さなハンミョウが多数飛び回っているのを見つけた。7月下旬ころには、一回り大きめの異なる種類のハンミョウも生息していることを発見した。採集して確認したところ、エリザハンミョウとコハンミョウであった。平成10年にも発生が認められ、エリザハンミョウは、6月中旬から7月下旬にかけて多数の個体が見受けられたが、8月に入るとほとんどその姿を見かけなくなった。コハンミョウは7月下旬から8月中旬にかけて、やはり多数の個体が見受けられた。8月下旬には、金沢城址への出入りができなくなったため、その後の様子はわからない。

生息地は、一時的に植木を植えるための土盛りが行われており、以前よりこの場所で発生をしていたものか、他の場所から運ばれてきたものかはわからない。1997年に比べると1998年の方が、確実に2種ともに個体数が多く、安定してこの場所で発生を繰り返しているものと考えられる。

金沢城址公園整備計画では、旧教養部の建物の取り壊しも間近に迫っている。おそらく、生息地が破壊されて芝生の広場になってしまい、この地での発生は見られないことになると思われる。

◆エリザハンミョウ

1997年6月18日 多数目撃
 " 7月30日 2♂2♀採集・少数目撃
 " 8月2日 2♂4♀採集・少数目撃
 1998年6月16日 多数目撃
 " 8月1日 1♀採集・少数目撃

◆コハンミョウ

1997年8月2日 1♂2♀採集・少数目撃
 1998年7月30日 4♂6♀採集・多数目撃
 " 8月1日 6♂9♀採集・多数目撃
 " 8月10日 3♂7♀採集・多数目撃

《よしむら ひさき 〒920-0941 金沢市旭町3-21-16》

石川県輪島市で採集された蝶のリストと未発表記録

日吉 芳 朗

これまでに輪島市で採集確認されている蝶のリストを作成した。この中で、私はアカシジミとオオムラサキは、目撃しているが採集はしていないし、ミズイロオナガシジミは目撃もしていない。また、ミドリシジミは、1998年に初めて採集した。

《 輪島市で採集された蝶のリスト 》

1 ミヤマセセリ	25 モンシロチョウ	49 メスグロヒョウモン
2 ダイミョウセセリ	26 スジグロシロチョウ	50 ウラギンヒョウモン
3 アオバセセリ	27 エゾスジグロシロチョウ	51 ツマグロヒョウモン
4 ホソバセセリ	28 ウラキンシジミ	52 イチモンジチョウ
5 キマダラセセリ	29 アカシジミ	53 アサマイチモンジ
6 コチャバネセセリ	30 ミズイロオナガシジミ	54 コミスジ
7 オオチャバネセセリ	31 ミドリシジミ	55 サカハチチョウ
8 チャバネセセリ	32 オオミドリシジミ	56 キタテハ
9 ミヤマチャバネセセリ	33 エゾミドリシジミ	57 ルリタテハ
10 イチモンジセセリ	34 トラフシジミ	58 ヒオドシチョウ
11 ウスバシロチョウ	35 コツバメ	59 ヒメアカタテハ
12 ジャコウアゲハ	36 ベニシジミ	60 アカタテハ
13 アオスジアゲハ	37 ゴイシシジミ	61 スミナガシ
14 キアゲハ	38 ウラナミシジミ	62 コムラサキ
15 アゲハ	39 ヤマトシジミ	63 ゴマダラチョウ
16 オナガアゲハ	40 ルリシジミ	64 オオムラサキ
17 クロアゲハ	41 ツバメシジミ	65 ヒメウラナミジャノメ
18 モンキアゲハ	42 ウラギンシジミ	66 ジャノメチョウ
19 カラスアゲハ	43 テングチョウ	67 クロヒカゲ
20 ミヤマカラスアゲハ	44 アサギマダラ	68 ヒカゲチョウ
21 キチョウ	45 ウラギンスジヒョウモン	69 オオヒカゲ
22 スジボソヤマキチョウ	46 オオウラギンスジヒョウモン	70 ヤマキマダラヒカゲ
23 モンキチョウ	47 ミドリヒョウモン	71 サトキマダラヒカゲ
24 ツマキチョウ	48 クモガタヒョウモン	72 ヒメジャノメ

松井正人氏にこのリストを見ていただいところ、キマダラセセリ、ミドリシジミ、コツバメ、サトキマダラヒカゲ、ヒメジャノメの5種が未発表であると指摘を受けた。そこで一見普通種のこれらが欠けているのは、正確な記録がなかったためと考え、筆者の手持ち

の標本と記録を整理してみた。

キマダラセセリ

1954年 7月18日	輪島市河井一本松公園	1 ♂	日吉芳朗
1955年 9月 8日	輪島市堀	1 ♀	日吉芳朗
1996年 7月16日	輪島市深見一乗	1 ♀	日吉芳朗
1997年 7月15日	輪島市深見一乗	1 ♂	日吉南賀子
1997年 7月18日	輪島市深見一乗	1 ♀	日吉南賀子

ミドリシジミ

1998年 8月10日	輪島市鉢伏山	1 ♀	日吉芳朗
-------------	--------	-----	------

コツバメ

1955年 4月10日	輪島市杉平	1 ♂	日吉芳朗
1955年 4月12日	輪島市河井一本松公園	1 ♂	日吉芳朗
1994年 4月25日	輪島市高洲山	1 ♀	日吉芳朗
1997年 5月 1日	輪島市町野広江	1 ♀	広江栄子
1997年 5月 3日	輪島市河井一本松公園	1 頭目撃	日吉芳朗

サトキマダラヒカゲ

1954年 8月 8日	輪島市河井一本松公園	1 ♂	日吉芳朗
1962年 8月20日	輪島市輪島崎浄明寺墓地	1 ♀	長井延雄
1980年 8月20日	輪島市久手川善之谷内	1 ♂	日吉芳朗
1993年 8月31日	輪島市河井輪島高校校庭	1 ♀	日吉芳朗
1998年 8月25日	輪島市河井一本松公園	1 頭目撃	日吉芳朗

ヒメジャノメ

1954年 6月22日	輪島市河井一本松公園	1 ♂	日吉芳朗
1962年 8月18日	輪島市河井蓮江寺墓地	1 ♀	日吉芳朗
1980年 8月20日	輪島市久手川大平	1 ♂	日吉治朗
1996年 6月29日	輪島市深見一乗	1 ♂	日吉芳朗
1997年 8月31日	輪島市高洲山	1 ♀	日吉芳朗

筆者にとって悔やまれるのは、中学時代（1956年）に標本箱の不足と虫食いのためにか
 なるの標本を処分したことで、その中にはコツバメとキマダラヒカゲ（サトかヤマかは不
 明）が数頭含まれていたことを思い出す。

《参考文献》

日吉芳朗（1969）石川県旧輪島町周辺の蝶類について．石川県立輪島高等学校紀要(3)：53-59.
 松井正人(1997)能登地方のゼフィルス．翔(129)：1-2.

《ひよし よしろう 〒928-0001 輪島市河井町 1部6 4-1》

珠洲市宝立山で得られた蛾類

富 沢 章

珠洲市宝立山で灯火採集した蛾類、79種を確認することができたのでここに報告する。
採集品を提供していただいた松井正人氏に感謝する。

◆ 1998年7月18日 石川県珠洲市宝立山 松井正人採集

ボクトウガ科

- 1 ゴマフボクトウ 1頭

マダラガ科

- 1 シロシタホタルガ 1頭

イラガ科

- 1 イラガ 1頭
2 ナシイラガ 2頭
3 ムラサキイラガ 1頭
4 クロシタアオイラガ 1頭

マドガ科

- 1 ハスオビマドガ 1頭

メイガ科

- 1 ツトガ 1頭
2 ウスクロスジツトガ 2頭
3 オオキバラノメイガ 6頭
4 クロオビノメイガ 3頭
5 マエアカスカシノメイガ 6頭
6 ヨツボシノメイガ 2頭
7 モンスカシキノメイガ 3頭
8 オオモンシロルリノメイガ 4頭
9 ホソミスジノメイガ 1頭
10 シロテンキノメイガ 1頭
11 オオフトメイガ 6頭
12 ネグロフトメイガ 1頭
13 ナカムラサキフトメイガ 3頭
14 クロテンアオフトメイガ 1頭
15 クロフトメイガ 1頭
16 ナカトビフトメイガ 1頭
17 ハスジフトメイガ 1頭

- 18 クシヒゲマダラメイガ 4頭

トガリバガ科

- 1 ウスジロトガリバ 2頭

シャクガ科

- 1 ヒトツメオオシロヒメシャク 1頭
2 リンゴツノエダシャク 1頭
3 ウスクモエダシャク 2頭
4 キバラエダシャク 1頭
5 バラシロエダシャク 3頭
6 アトグロアミメエダシャク 2頭
7 ウスオビヒメエダシャク 1頭
8 ウラモンアカエダシャク 1頭
9 シロジマエダシャク 1頭

ヤママユガ科

- 1 オオミズアオ 1頭

スズメガ科

- 1 ホソバスズメ 1頭
2 クルマスズメ 1頭
3 ビロードスズメ 1頭
4 ハネナガブドウスズメ 1頭
5 クチバスズメ 1頭
6 エゾスズメ 1頭
7 エゾシモフリスズメ 1頭
8 クロテンケンモンスズメ 2頭
9 ウンモンスズメ 1頭
10 ホシハウジャク 2頭

シャチホコガ科

- 1 ギンモンスズメモドキ 3頭
2 ブナアオシャチホコ 4頭

- 3 マルモンシャチホコ 2頭
 4 ホソバシャチホコ 2頭
 5 クビワシャチホコ 3頭
 6 ウスイロギンモンシャチホコ 4頭
 7 ウスヅマシャチホコ 1頭

ドクガ科

- 1 リンゴドクガ 1頭
 2 ヒメシロモンドクガ 1頭

ヒトリガ科

- 1 キベリネズミホソバ 1頭

ヤガ科

- 1 ネグロケンモン 1頭
 2 シロスジキノコヨトウ 4頭
 3 キシタミドリヤガ 4頭
 4 オオアオバヤガ 1頭
 5 ウスイロカバスジャガ 1頭
 6 ヒメウスグロヨトウ 3頭

- 7 ハジマヨトウ 3頭
 8 イタヤキリガ 1頭
 9 ニッコウフサヤガ 3頭
 10 サビイロコヤガ 1頭
 11 マエキリング 1頭
 12 キシタバ 4頭
 13 オニベニシタバ 1頭
 14 コガタキシタバ 1頭
 15 エゾシロシタバ 4頭
 16 ゴマシオキシタバ 2頭
 17 モンムラサキクチバ 4頭
 18 キマダラアツバ 1頭
 19 クロキシタバ 1頭
 20 ホシムラサキアツバ 1頭
 21 ミツボシアツバ 1頭
 22 オオシラホシアツバ 2頭
 23 クロスジアツバ 1頭

特筆すべき種はいないが、当地にはブナ林があるため、ブナの固有種であるゴマシオキシタバ、マルモンシャチホコ、ブナアオシャチホコが得られ、これらは能登地方では初記録である。

《とみさわ あきら 〒923-0911 小松市大川町3丁目71》

短 報 32

ハルゼミ	1999年4月22日	石川県加賀市片野	声	富沢 章
ハルゼミ	1999年4月24日	石川県能登島町半浦	声	日吉南賀子
ハルゼミ	1999年5月1日	石川県小松市那谷寺	声	澤田 博
ハルゼミ	1999年5月1日	石川県小松市佐美	声	松井正人
ハルゼミ	1999年5月6日	石川県金沢市卯辰山望湖台	声	河崎悦子
ハルゼミ	1999年5月11日	石川県輪島市河井	声	日吉南賀子
ハルゼミ	1999年5月12日	石川県金沢市倭	声	野田延孝
ハルゼミ	1999年5月17日	石川県金沢市畠尾	声	野田延孝

ハルゼミプロジェクト始動

ウスバシロチョウの頃に鳴くハルゼミは、知名度が低く、県内に広く分布しているのかわらないのか、はつきりわからない。そこでこの時期、会員内外に声の聞き取りを呼びかけている。人によって聞こえ方が違い、「ゲーオ、ゲーオ」、「ムジェーオ、ジェーオ」、「ジェーオ」、「ギヤー、ギヤー」と鳴いている。

舢倉島で鳥と虫の観察会

愛鳥家でもある矢田氏、五月の連休は、舢倉島で観察三昧。夜の鳥合わせでは、百種ほどが観察されているらしいが、二十五年通っている氏に拠れば、少し少ないようだ。今回のヒットは、土中からコガネムシを掘り出して食べているヤツガシラの写真とか。

ヒメギフと家族サービス

この時期、お父さんばかり遊んでいては、お母さんに角が生えてくる。てな訳で連

休中の何日かは、家族サービスに費やすこととなる。買物の付き合いなど最も手頃だが、家族旅行と虫取りのセツトも捨てがたい。久慈氏は、入笠山へ出かけたが、ヒメギフには早すぎたらしい。でも、家族旅行では転載できない。

白山の自然誌「白山の蝶」

白山自然保護センターから、白山の自然シリーズ十九番として「白山の蝶」が印刷された。文・構成は、竹谷・松井の両氏が、写真は竹谷氏が担当している。カラー写真四十一枚A5判二十一頁。センターに頼むともらえるよ。☎〇七六一九(五)五三二一

ツマガロ越冬確認プロジェクト

去年は、石川県各地でツマガロヒヨウモンが大発生。越冬確認は今年が最適と、各発生地を、日吉、嵯峨井、松井の三氏が見張っていた。幼虫のひなたぼっこは確認されなかったが、五月八日に成虫が飛んだ。

富山県でもツマガロ越冬か

富山県でも昨年大発生したポイントがあり、十一月末まで成虫が採れていた。ここでも越冬調査が行われていて、五月に入って一回り小さい成虫が採れている。

フォルモサの森を舞う妖精

ランタナ、常夏の島、麗しき蝴蝶と台湾三部作に続く内田春男氏の第四段。台湾産ゼフィルス二十五種の生態写真を収録し、五月末出版予定。

例会の記録

四月八日(木)城南管工二階にて午後八時から開催。

蝶談会をインターネットで紹介したいとの話があり、対応について話し合う。その他は四月にふさわしく、ギフチョウの話ばかり。

金沢のギフは竹林で、この時期は採集日記を持ち歩く、四月例会は地図帳持参、ギフチョウポスターをいつも眺めている、里ギフ・山ギフ・高

嶺ギフ、昆虫目録は南陽堂にある、等々。

参加は、竹谷、久慈、林、笹川、指田、松井、中西、山岸の八人。

例会の記録

五月六日(木)城南管工二階にて午後八時から開催。

北川氏の好意により、仮公開されている蝶談会ホームページに付いて、意見を出し合う。北川氏は、おなじみ「金沢の昆虫」の製作者。

その他の話題は、コウモリバエの正体、クロジのハジラミ、白山のモンクロキイロナミ、尾添川のギフ調査、キゴ山のウラナミアカ、二泊三日の沖繩旅行、与那国・石垣夜のピーティング等々。見せびらかし標本は、ムネモンウスアオ、キンケビロード等の沖繩のカミキリムシ。

参加は、徳本、久慈、笹川、中西、松井、富沢、竹谷、細沼、井村、西原、林(TEL参加)の十一人。

【表紙デザイン：小幡英典】

会員の動き・しゃべりの動き

ゆずりは軍団、窪周辺に出没

四月四日はギフチヨウ日和、窪周辺にはネットが舞った。杠氏の顔も見えたので、氏のコーディネートによる採集会かと思われるが、時期はピツタリ。ピカピカギフが、たくさん舞っていたでしょう。

ハブもビックリ沖繩十日間

何を狙ったか知らないが、井村会長と江崎氏は、四月早々から沖繩で採集三昧。漏れ聞いた話によると、夜中のピーティングが主で、ここにハブが居たらしいが、サキシマはヘッチャラとか。

クビキリギスが鳴き出した

四月十八日、日が暮れるとまだまだ寒いのに、暗い庭で何かがジージー鳴いている。木の上なので新手のアオマツ

ムシかと思ったが、徳本氏に見てもらおうとクビキリギス。狭い庭で四、五頭鳴かれるとやかましい事この上ない。

ポケベルにつながれた西原氏

この四月から内科に勤務している西原氏、個人の時間が全く無い。何時いかなる時でもポケベルが鳴ると、すぐに駆けつけないといけないように、病院からは一步も外には出られない。ゲンゴすくいなんで、夢のまた夢。

キゴ山のウラナミアカシジミ

「キゴ山スポセンポイントで、コナラとミズナラからウラナミアカを採幼」との情報が入った。クヌギ、アベマキ以外は初記録と、直ぐさま追認に出た松井氏だったが、見づからない。二日つぶしても

発見できず、別ポイントで何とかコナラから採幼した松井氏だった。ところが、このキゴ山情報、なんと間違い。そう言えば、以前にも似たような話がありました。

探れていたセアカオサムシ

以前、蝶談会オサムシグループが探していたが、未発見におわっているセアカオサムシ、県内では倉ヶ岳に唯一の記録があるが、なんと三十八年前の記録。ところが、石川昆虫館の調査で、昨年二頭が採集されていた。これを知った旧オサムシグループ、すぐさまトラップをセットしたが。

おとり捜査でハルゼミ調査

ハルゼミはなかなかかデリケートなセミで、気分が載らないと鳴いてくれない。お日様ピカピカ、気温も二十度以上の好条件でも、なかなか鳴いてくれない気分屋だ。そこでカセットに録音したおとりの声を流し、連れ鳴きするのを待つことになる。

翔

NO. 138

1999年6月1日発行

百万石蝶談会

金沢市大場町東871-15 松井方

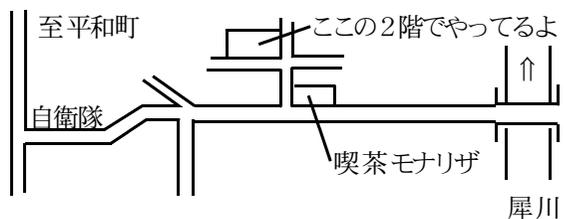
☎920-3121 ☎076-258-2727

郵便振替 00750-8-562

印刷 小西紙店印刷所

例会は偶数月・5月・7月の第1木曜日8時から

TEL参加もOKです (076-244-3318)



目 次 (138号)

松井正人：ヒメキマダラセセリの卵と幼虫を観察	1
松井正人：石川県加賀市でツマグロヒョウモン越冬か	2
吉村久貴：金沢城址におけるハンミョウ科2種の採集・目撃記録	4
日吉芳朗：石川県輪島市で採集された蝶のリストと未発表記録	5
富沢 章：珠洲市宝立山で得られた蛾類	7
編 集 部：会員の動き・しゃばの動き	12